

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購買生産指導部  
購買推進課

## 北米コンテナ船情勢

1月に引き続き、現在も北米西海岸航路は主要の乗継航路を含めて本船スケジュールに乱れが発生しています。1月中旬には北米全体に大寒波が襲い、北部州だけではなく、内陸州でも凍結や暴風注意報が発令されました。その影響により内陸州に向かうトラック数が減少し一時的にトラック不足となり、一部のオーダーで遅延が発生しています。中でも、PNW（太平洋岸北西部）のワシントン州では大寒波による雪の影響でエレンズバーグとシアトル・タコマ港を結ぶI-90（州間高速道路90号線）で事故が発生し、区間閉鎖や一般道路の混雑も発生しておりスケジュール悪化に拍車をかけている状況です。輸出業者も年末前から発生している出荷の遅れに対して改善の兆しがなく、注文に対して半分程度しか出荷出来ていないこともあり、スケジュールの安定までは時間がかかる見込みです。

また、降水量不足の懸念があるパナマ運河では引き続き通行する船舶の通航隻数の制限を行っています。11月の降雨により水不足は一部解消し、通航隻数も緩和されましたが、通常隻数には戻っていない状況です。パナマ運河庁（ACP）は雨季に入る4月末には水位を確保出来ると予想していますが、今後の状況には注視が必要です。

スエズ運河近くの紅海ではイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が続いているため、各船社はスエズ運河を経由できず、喜望峰経由での運行に変更しており、世界的に輸送効率が大幅に低下しています。一部の船社は早い段階でスエズ運河経由航路の再開を検討しておりましたが、その後もフーシ派が米貨物船を攻撃するなど、状況は悪化しているため、スエズ運河経由航路の運行再開にはまだ時間がかかる見込みです。

## ビートパルプ

【米国】

産地では23-24年産のビートパルプの生産と製糖作業が続いています。産地であるノースダコタ州やミネソタ州では例年より温暖な気候が続いており、屋外で保管されている砂糖大根の廃棄が懸念されていますが、現在のところ問題になっていません。

産地での余剰在庫は例年並～例年以下であることに加え、23-24年産の生産量が予測より下回る可能性もあることから今後の動向を見極める状況が続いています。需要についてはドル高の影響もあり輸出向けは低調に推移しています。

## アルファルファ

### ワシントン州

主産地であるワシントン州エレンズバーグでは降雨や降雪の影響により屋外で原料草を保管している場所まで行くことができず、米国内輸送にも影響が出ています。2月も降雨予想が続くことから輸送の遅れが続く見込みのため、今後のスケジュールには注視が必要です。また、23年産は上級品の発生が限定的になったことから中～低級品が多くなりましたが、輸出業者は生産コスト上昇による経費削減のため原料草保管タープ（ビニールシート）の枚数を減らしたことで降雨や降雪の被害が発生し、輸出出来ない品質になっています。そのため、中～低級品の産地在庫も限定的となっています。

### カリフォルニア州

カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、降雨が続き例年より気温が低い日が続いています。産地では24年産の生産が進んでおり、一部の圃場で1番刈の収穫が開始されています。産地当局から発表された、1月15日付けのインペリアルバレーにおけるアルファルファの作付面積は前年同期比95%となる146,446エーカーとなっています。

## 米国産チモシー

23年産の生産は終了しました。23年産の上級品不足の影響により、現在も米国内外から強い引き合いが来ており、低級品の在庫は完売となっています。24年産の作付面積については、23年産の価格下落により生産農家は換金性が高いとうもろこしや大豆といった他作物に転作することが予想されていますが、チモシーに限らず農作物全般の相場が下がっていることから、作付面積は変わらないとの声も出ています。

## スーダングラス

スーダンの主な輸出先である日本向けの需要は徐々に回復してきていますが、例年と比較すると停滞しています。23年産の価格軟化や日本の需要減少により、生産農家の意欲も低下しており、24年産の作付面積は23年産よりも減少すると予想されています。先々の生産量は減少の見込みですが、日本向けの需要に対しては未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため供給力に懸念はないと思われます。

## クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

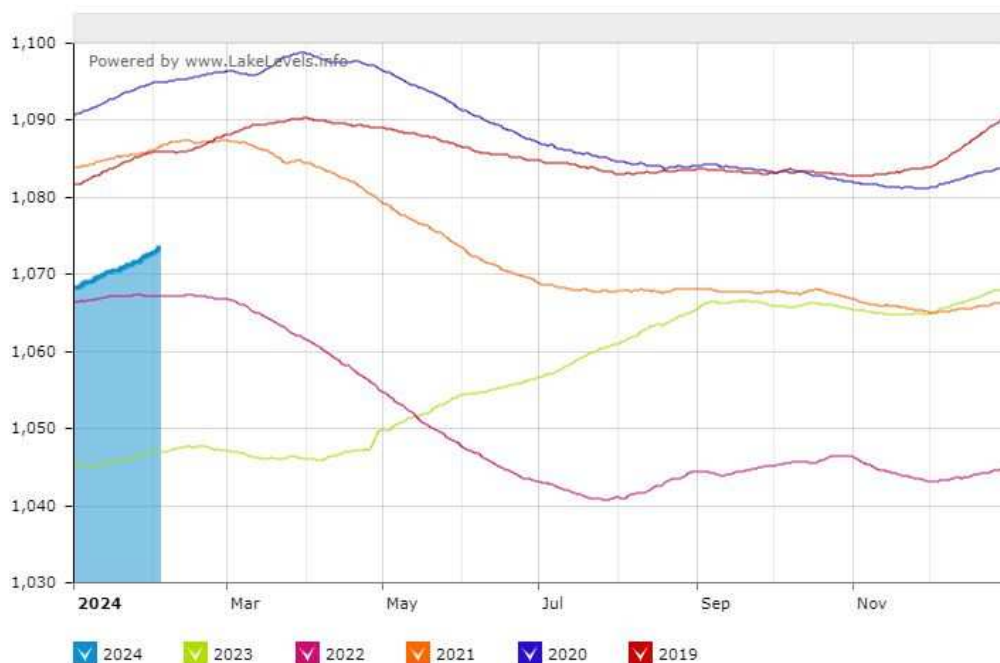
カリフォルニア州南部インペリアルバレーの灌漑局から発表となった1月15日時点の作付面積は21,330エーカー（昨年同時期21,895エーカー）、前年同時期比97%となっています。

米国内需からの引き合いはないものの、日本や韓国向けの出荷は安定している状況です。

## ファロープログラム（休耕地政策）について

米国連邦政府は、干ばつによるミード湖の水位減少に歯止めをかけ、長期的な問題解決に取り組むため、節水を目的とするファロープログラム（休耕地政策）を検討しています。ファロープログラムは1年を通して刈取り回数が多い、クレーングラス、バミューダ、アルファルファといった多年草を対象に、夏場の刈取りを行う際に水を入れずに畑を休ませることで節水を行い、牧草生産者へ補助金を支出する政策です。クレーングラスは例年1～5番刈まで刈取りを行いますが、ファロープログラムを実施した場合、夏場に刈取る4番～5番刈を行わないこととなり、生産量減少が見込まれるため政策実施の有無について注視が必要です。

下記図は2019年から2024年2月現在までのミード湖貯水量の推移（単位：フィート）で、2023年（黄緑線）はロッキー山脈からの雪解け水やハリケーンによる降雨の影響でミード湖の水位が上昇しましたが、2019（赤線）－2020年（紫線）と比較すると依然として水位は低水準で推移しています。



## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

23年産は降雨が少なく土壌中の水分が不足した影響で生育が進まず収穫期に突入したことから生産量は大幅に減少しています。現在の日本向け需要は低調ですが、韓国向けで出荷が回復してきています。オレゴン州主要積み出し港のポートランド港では慢性的な空コンテナ不足に加え、悪天候の影響で出荷の遅れが懸念されています。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区では12月は暖冬の影響で温暖な日が続き、1月は大寒波の影響で急激に気温が下がり氷点下20℃～30℃の日が続きましたが、2月現在は春先並の気候の予報となっています。暖冬の影響でカナダ国内酪農家向けの越冬用需要が軟化したことから、引き合いは例年より少なくなっています。

## 豪州産オーツハイ・ウィートストロー

23年産オーツハイの作況は全豪全体で降雨が少なかった影響により大半が上級品の発生で、中～低級品の発生は限定的となりました。

ウィートストローの作況について、収穫作業は概ね1月末で終了していますが、南豪州と東豪州では12月以降、収穫時に降雨が続いた影響で被害が多く発生し、出荷が限定的になる見通しです。西豪州では降雨が少なかったものの、各輸出業者はオーツハイの中～低級品需要を補うためにオーツハイとウィートストローをブレンドして出荷しておりウィートストローの需要は増加しています。

## 豪州ストライキについて

10月上旬よりMaritime Union(港湾労働者組合)とDP World terminal(港湾施設)間で港湾作業を停止するストライキが断続的に発生していましたが、Maritime Unionに対して賃上げの待遇改善を行うことで大枠合意となりました。両社の合意によりストライキは終了となりましたが、本船スケジュールの乱れの解消には数週間掛かる見込みです。

以上